

全ての子供たちの「主体的な学び」の実現に向けて、令和2年3月に整理した「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に係る提案」に基づき、県内4地域において、実証研究を実施しています。1年間の取組により、子供たちの資質・能力が向上するなどの教育効果が見られました。

1 実証研究の概要

子供たち一人一人の学習進度・能力・関心等に応じた多様な選択肢を提供することで、子供たちは自己決定を繰り返しながら、主体的な学びを展開しています。

【事例1】廿日市市立宮園小学校

【単元内自由進度学習】

学校の重点目標「自ら考え行動する子供」の育成を目指し、一斉授業の形態だけではなく、子供たちが『学習計画表』を活用して教科書、プリント、AI型タブレット教材等の多様な選択肢の中から自分に合った学習方法を選択し、自分のペースで学んでいます。



自分に最適な方法やペースで学習を進めるからこそ自然に教え合う場面も見られます♪

【事例2】福山市立福山中学校

【興味・関心に応じたMY探究】

学校教育目標を踏まえたスローガン「i. dream 一人一人の夢の実現」を目指し、総合的な学習の時間を中心に、生徒一人一人の興味・関心に基づくMY探究を企画し、自分のやり方やペースで実行していく中で、各自の夢の実現に主体的にコミットしています。



自分の興味関心をカタチにしていける探究活動なので生徒たちのワクワクが止まりません♪

2 主な教育効果

○子供たちの資質能力が向上しました！

コンピテンシーが伸びた児童生徒の割合：約92%

○自己決定すれば、実行力や自己効力(※)が伸びました！

決断力が伸びた児童生徒のうち、実行力も伸びた者：約70%

決断力が伸びた児童生徒のうち、自己効力(※)も伸びた者：約75%

※自分ならできると自信を持って物事を進めることのできる能力

○子供たちの主体性・理解度・満足度が高かった！

各アンケートでの肯定的回答

主体性：約94%、理解度：約91%、満足度：約93%





個別の状況に応じたカリキュラムの 編成・実践に関する提案

【実践事例編】

選択肢！

～Society5.0 を見据えた
「学びの変革」のアップデート～

令和3年3月
広島県教育委員会事務局
個別最適な学び担当
(こべたん)



～ 目 次 ～

はじめに

- 1 個別最適な学びに関する実証研究の取組概要・・・・・・・・・・・・・・・・ P.2
- 2 個別最適な学びに関する実証研究を振り返っての気づき・・・・・・・・ P.3
- 3 個別最適な学びの教育効果（概要）・・・・・・・・・・・・・・・・ P.4
 - 3-① 教育効果等の分析サマリー（宮園小学校）・・・・・・・・ P.6
 - 3-② 教育効果等の分析サマリー（三高小学校）・・・・・・・・ P.8
 - 3-③ 教育効果等の分析サマリー（みらさか小学校）・・・・・・・・ P.10
 - 3-④ 教育効果等の分析サマリー（三良坂中学校）・・・・・・・・ P.12
 - 3-⑤ 教育効果等の分析サマリー（福山中学校）・・・・・・・・ P.14
- 巻末参考 中央教育審議会答申（R3.1）と本県提案（R23）との関係性・・・ P.16

別冊 具体的な実践事例

- 実践事例報告①：宮園小学校
- 実践事例報告②：三高小学校
- 実践事例報告③：みらさか学園
- 実践事例報告④：福山中学校



はじめに

【県の動き】

○本県では、全ての子供たちの「主体的な学び」の実現に向けて、個別最適な学びに関する調査研究を進め、令和2年3月に「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に係る提案」として整理するとともに、同年4月から、県内4地域において「個別最適な学びに関する実証研究」に取り組んでいます。

【国の動き】

○令和3年1月に、中央教育審議会から「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～」が答申されました。

＜ポイント＞

「社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難になってきている中、ICTも活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びを充実し、子供たちの資質・能力を確実に育成する必要がある。」

【本冊子の活用イメージ】

○各実証研究校での実践事例や教育効果の検証結果などについて、上記提案に関する「実践事例編」として取りまとめました。これらは、あくまで選択肢の一つです！

○各学校が掲げる教育目標の実現に向けて、本稿に掲載した実践事例の中から、「効果がありそう!」「取り入れてみたい!」と思う事例があれば選択し、まずは実践してみてください。きっと、子供たちは、これまで以上に、主体的に学ぶ姿を見せてくれると思います。

令和3年3月

1 個別最適な学びに関する実証研究の取組概要

県内4地域の実証研究校において、学校教育目標の実現に向け、子供たち一人一人の学習進度・能力・関心等に応じた **多様な選択肢** を提供することで、子供たちは **自己決定** を繰り返しながら **主体的な学び** を展開しています。

廿日市市立宮園小学校

【単元内自由進度学習】

学校の重点目標「自ら考え行動する子供」の育成を目指し、一斉授業の形態だけではなく、子供たちが『学習計画表』を活用して教科書、プリント、AI型タブレット教材等の多様な選択肢の中から自分に合った学習方法を選択し、自分のペースで学んでいます。



自分に最適な方法やペースで学習を進めるからこそ自然に教え合う場面も見られます♪

三次市立みらさか学園

【プロジェクト学習】

学校教育目標に掲げる「自立と共生」の実現に向け、子供たちは自ら学習プランを作成し、自分たちの力で試行錯誤しながら、自己調整力や協働力を活用して課題解決を目指していく「単元別プロジェクト学習」に取り組んでいます。



自分に最適なプランを作成することで、自分の学びに責任を持つようになりました♪

江田島市立三高小学校

【イエナプランを参考にした自立・協働学習】

学校教育目標に「自ら学び共に伸びる子供の育成」を掲げ、自然に対話が生まれる学びの環境づくりを大切にし、『学習計画表』を活用して自分のペースで進める自立学習や、子供たちの問いから始まる異年齢集団での探究学習に取り組んでいます。



多様性を尊重し、子供たち同士の対話や協働の場面を大切にしています♪

福山市立福山中学校

【興味・関心に応じたMY探究】

学校教育目標を踏まえたスローガン「i.dream 一人一人の夢の実現」を目指し、総合的な学習の時間を中心に、生徒一人一人の興味・関心に基づくMY探究を企画し、自分のやり方やペースで実行していく中で、各自の夢の実現に主体的にコミットしています。



自分の興味関心をカタチにしていける探究活動なので生徒たちのワクワクが止まりません♪

2 個別最適な学びに関する実証研究を振り返っての気付き

Goal

全ての児童生徒の「**主体的な学び**」の実現

手法

子供の実態に応じた多様な「**選択肢**」と「**自己決定**」を意識した教育活動

Point 1

教職員の大切にしたい心の持ち方・考え方

(次のようなマインドセットを意識)

- 学びの主体は子供 (⇒ 支え励まそう)
- 子供は力を持っている (⇒ 委ねよう)
- 子供には多様性がある (⇒ 尊重しよう)

Point 2

子供の実態(学習進度・能力・関心等)に応じた多様な選択肢と自己決定場面を設定

実証研究校での検証結果 (教育効果)

- ◆ 子供たちの資質・能力が向上した!
～コンピテンシーが伸びた児童生徒割合: **約92%**
- ◆ 自己決定すれば実行力・自己効力が伸びた!
～決断力が伸びた児童生徒のうち、実行力も伸びた者: **約70%**
～決断力が伸びた児童生徒のうち、自己効力も伸びた者: **約75%**
- ◆ 子供たちの主体性・理解度・満足度が高かった!
～各アンケートでの肯定的回答
主体性: **約94%**, 理解度: **約91%**, 満足度: **約93%**

実証研究校での目指す姿

子供

- **自分から進んで学習しているか?**
 - ・自ら学習方法や内容を選択し、自分のペースで学んでいるか?
 - ・分からない事を学び合いの中で自分たちで解決しているか?
- **自分の学びを本気で振り返っているか?**

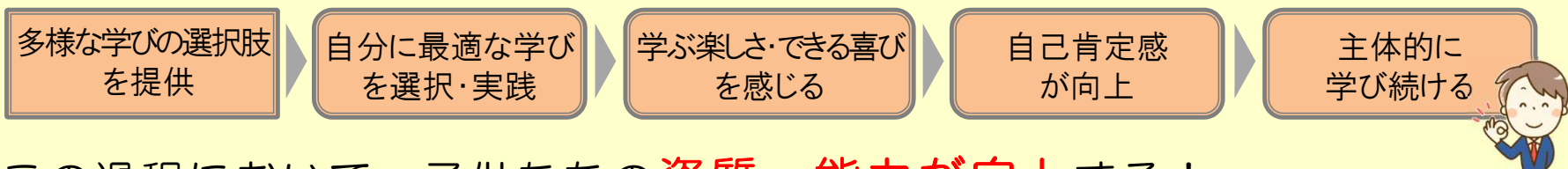
教師

- ◆ **子供の実態を踏まえた教材研究ができていますか?**
- ◆ **一人一人の学びを見取っているか?**
- ◆ **個に応じた支援ができていますか?**

3 個別最適な学びの教育効果（概要）

◆「主体的な学び」を定着させるための仮説

- 子供の実態に応じた多様な学びの選択肢を提供し、子供たちの自己決定場面を増やすことにより、子供たちが主体的に学び続ける！



- この過程において、子供たちの資質・能力が向上する！

◆ 検証結果（1年目の中間報告）

- 実証研究校において、次のとおり、仮説を裏付ける結果が得られた。

項目	結果概要
①資質・能力の相関	決断力の伸びは実行力や自己効力の伸びに影響する
②資質・能力の変容	学校で育成したい資質・能力が向上
③資質・能力と学力テスト結果との相関	資質・能力の伸びが学力テスト結果に影響する
④児童生徒アンケート結果	主体性・満足度・理解度などが向上
⑤教職員インタビュー結果	自己肯定感や主体性の向上などに手応えあり

【参考】資質・能力の測定分析方法

- 各学校において育成したい資質・能力に関連するコンピテンシーを設定し、AiGrow（※）を活用して、取組前後の伸びを測定・分析した。

コンピテンシー	コンピテンシー詳細	各学校で設定したコンピテンシー				
		宮園小	三高小	みさか小	三良坂中	福山中
課題設定	状況を的確に把握しながら「何をすべきか」「どうやって成し遂げるか」を自ら考え出せる能力				●	●
創造性	自分ならではの独自性に加えて、実現可能な生産性を伴ったアイデアを出すことのできる能力				●	●
論理的思考	道理や筋道に即して物事を深く考えることができ、複雑なことでも分かりやすく説明できる能力	●	●	●	●	●
疑う力	他者の意見をそのまま鵜呑みにすることなく、必要に応じて建設的な反論することのできる能力					●
個人的実行力	自らの意思によって行動を起こして計画を進め、何事にも自ら進んで取り組むことのできる能力	●	●	●	●	●
ビジョン	将来、自分がどのように成長していきたいかなど、未来の目標を明確に持つことのできる能力				●	●
耐性	困難な状況であっても、自分で決めたことは最後までしっかりとやり抜くことのできる能力				●	●
自己効力	何らかの課題に直面しても、「自分ならできる」と自信を持って物事を進めることのできる能力	●	●	●	●	●
決断力	自分の考えと客観的な事実とを照らし合わせながら判断し、物事を決めることのできる能力	●	●	●	●	●
表現力	自分の考えや思いはもちろん、どんなことでも相手が理解しやすいように伝えることのできる能力	●		●	●	●
共感・傾聴力	相手の話を真剣に聴き、相手を深いレベルで理解し、相手の気持ちを尊重することのできる能力					●
柔軟性	変化への対応力とともに、その場その場で機転を利かせて行動を適宜修正することのできる能力					●
寛容	自分とは考えや意見の異なる相手に対しても理解を示し、それを許容する態度が持てる能力	●	●	●	●	●
影響力の行使	他者に対して自分の考えや目的を伝えながら、ともに協働して物事を進めることのできる能力				●	●
地球市民	自分が住む地域や日本のことはもちろん、世界の一員として何ができるか考えられる能力				●	●

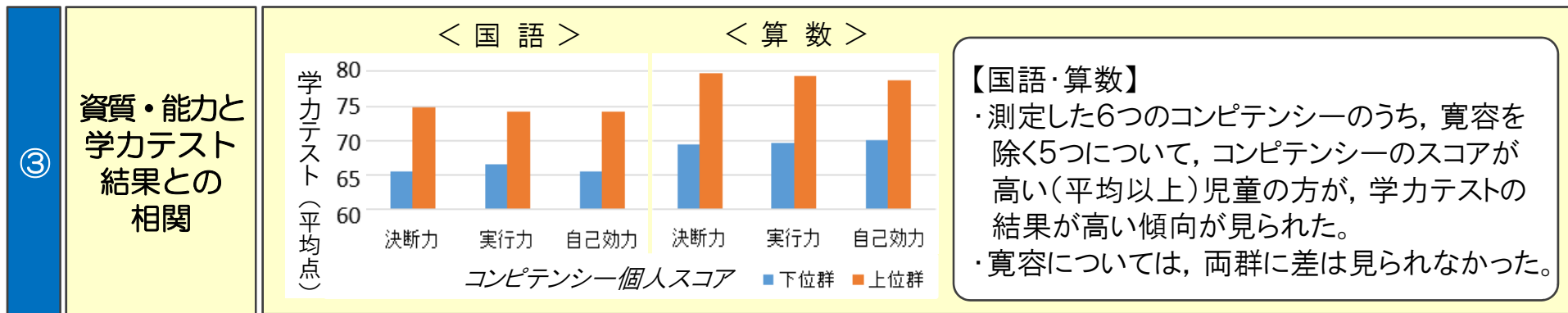
※ AiGrow：AIを活用してコンピテンシー（ある役割において優秀な成果を発揮するための行動特性）を測定・可視化できるEdTechソフト

3-① 教育効果等の分析サマリー(宮園小学校)

実証研究概要	学校重点目標	自ら考えて動く子供の育成 ～自立・多様性の尊重・挑戦～
	育成したい資質・能力	主体性・積極性, 思考力・判断力・表現力
	実証手法 (自己決定場面)	単元内自由進度学習(小3～6:算数メイン) - 学習計画表に基づき, 単元内を自分のペースで学習 - 学習方法を自分で選択～教科書, プリント, AI型タブレット教材など
	測定コンピテンシー	論理的思考, 実行力, 自己効力, 決断力, 表現力, 寛容 (AiGrow活用:R2.7→R3.2)
	学力テスト	算数, 国語 (東京書籍:標準学力調査 R3.1)

①	資質・能力の相関	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 自己決定するほど実行力や自己効力が高まり, 実行するほど自己効力が高まる傾向あり。 ➤ その他, 論理的思考と実行力, 決断力と表現力・寛容にも相関が見られた。 																
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>内容</th> <th>割合</th> <th>相関係数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>決断力 - 実行力</td> <td>決断力が伸びた児童(48%)のうち, 実行力も伸びた児童</td> <td>70%</td> <td>0.543</td> </tr> <tr> <td>決断力 - 自己効力</td> <td>決断力が伸びた児童(48%)のうち, 自己効力も伸びた児童</td> <td>80%</td> <td>0.545</td> </tr> <tr> <td>実行力 - 自己効力</td> <td>実行力が伸びた児童(52%)のうち, 自己効力も伸びた児童</td> <td>73%</td> <td>0.474</td> </tr> </tbody> </table>	区分	内容	割合	相関係数	決断力 - 実行力	決断力が伸びた児童(48%)のうち, 実行力も伸びた児童	70%	0.543	決断力 - 自己効力	決断力が伸びた児童(48%)のうち, 自己効力も伸びた児童	80%	0.545	実行力 - 自己効力	実行力が伸びた児童(52%)のうち, 自己効力も伸びた児童	73%	0.474
		区分	内容	割合	相関係数													
		決断力 - 実行力	決断力が伸びた児童(48%)のうち, 実行力も伸びた児童	70%	0.543													
		決断力 - 自己効力	決断力が伸びた児童(48%)のうち, 自己効力も伸びた児童	80%	0.545													
実行力 - 自己効力	実行力が伸びた児童(52%)のうち, 自己効力も伸びた児童	73%	0.474															

②	資質・能力の変容	<p><各コンピテンシーが伸びた児童割合></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・算数の授業を中心に, 教育活動の中で自己決定場面を意識して設定したことで, 約半数の児童の「決断力」が伸びた。 ・最初は自立的な学習方法に戸惑っていた児童も, 自分で最適な手法を選択しているため, 最後まで粘り強く取り組むことができ, 過半数の児童の「実行力」が伸びた。 ・決断や実行を繰り返すことで, 約6割の児童が, 自分ならできると自信を持って行動できる力, いわゆる「自己効力」が向上。
---	----------	---------------------------------	--



④ 児童アンケート結果

＜自分に最適な学びの方法を選択・決定して進める算数の授業について＞

区分	質問項目	肯定的評価
主体性	これまでより自分から進んで取り組めた	89%
理解度	これまでより分かりやすかった	84%
満足度	今後もこういう授業を続けたい	93%

【主なコメント】

- ・自分のペースで進められるので理解しやすい。
- ・友達にたくさん教えてもらえるので勉強が楽しくなった。
- ・これまでより算数が好きになった。

⑤ 教職員インタビュー結果

区分	主なコメント
指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・今までと比べて、実態把握する時間ができ、適切に「個への支援」ができるようになった。 ・全ての子供が本気で学ぶには、委ねるだけではまだ難しいので、適切な支援や声掛けが必要。 ・進度が様々だと見取りが難しいが、子供たちに本気で振り返るように話をしたり、EdTechを活用して見取りをしたりすることで、子供たちの学びを把握できるようになってきた。
児童の反応・変化	<ul style="list-style-type: none"> ・困ったときに自分から友達や先生に「分からない」「教えて」と言えるようになった。 ・自分でやろう、自分から分かるようになっていこうといった本気で学びたいという姿勢が見えてきた。

課題と対応

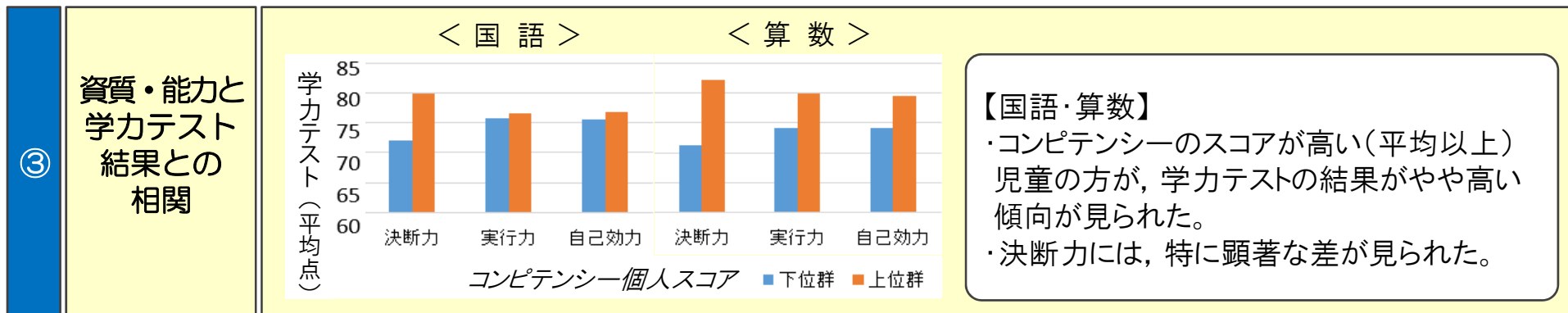
残された課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自由進度学習の中で、より児童一人一人のペースに応じた学習内容や方法の充実が必要。 ・個別学習における学び合いだけでなく、もっと意図的に協働的な学びを充実させることが必要。
今後の対応(R3年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・複数教科による自由進度学習を実践するとともに、知識・技能の習得に係る時間を短縮し、生み出した時間で思考力・判断力・表現力の向上に向けた問題に取り組む。 ・各教科や総合的な学習の時間における探究学習(PBL)の充実。

3-② 教育効果等の分析サマリー(三高小学校)

実証研究概要	学校重点目標	自ら学び, ともに伸びる子供の育成 ~自立・共生・創造性~
	育成したい資質・能力	主体性, 自己肯定感, 共感力, 表現力
	実証手法 (自己決定場面)	イエナプランを参考にした自立・協働学習 - 学習計画表に基づき, 算数や国語の授業を中心に自分のペースで学習 - 学習方法を自分で選択~教科書, プリント, AI型タブレット教材など - 異学年での探究学習における探究テーマや解決手法等を自分で選択
	測定コンピテンシー	論理的思考, 実行力, 自己効力, 決断力, 寛容 (AiGrow活用:R2.7→R3.2)
	学力テスト	算数, 国語 (東京書籍:標準学力調査 R3.1)

①	資質・能力の相関	<ul style="list-style-type: none"> 自己決定するほど実行力や自己効力が高まり, 実行するほど自己効力が高まる傾向あり。 その他, 全体的に各コンピテンシーの伸びに相関が見られた。 														
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>内容</th> <th>割合</th> <th>相関係数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>決断力 - 実行力</td> <td>決断力が伸びた児童(55%)のうち, 実行力も伸びた児童</td> <td>67%</td> <td>0.861</td> </tr> <tr> <td>決断力 - 自己効力</td> <td>決断力が伸びた児童(55%)のうち, 自己効力も伸びた児童</td> <td>75%</td> <td>0.806</td> </tr> <tr> <td>実行力 - 自己効力</td> <td>実行力が伸びた児童(45%)のうち, 自己効力も伸びた児童</td> <td>70%</td> <td>0.816</td> </tr> </tbody> </table>	区分	内容	割合	相関係数	決断力 - 実行力	決断力が伸びた児童(55%)のうち, 実行力も伸びた児童	67%	0.861	決断力 - 自己効力	決断力が伸びた児童(55%)のうち, 自己効力も伸びた児童	75%	0.806	実行力 - 自己効力	実行力が伸びた児童(45%)のうち, 自己効力も伸びた児童
区分	内容	割合	相関係数													
決断力 - 実行力	決断力が伸びた児童(55%)のうち, 実行力も伸びた児童	67%	0.861													
決断力 - 自己効力	決断力が伸びた児童(55%)のうち, 自己効力も伸びた児童	75%	0.806													
実行力 - 自己効力	実行力が伸びた児童(45%)のうち, 自己効力も伸びた児童	70%	0.816													

②	資質・能力の変容	<p><各コンピテンシーが伸びた児童割合></p> <table border="1"> <caption>各コンピテンシーが伸びた児童割合</caption> <thead> <tr> <th>コンピテンシー</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>論理的思考</td> <td>35%</td> </tr> <tr> <td>個人的実行力</td> <td>45%</td> </tr> <tr> <td>自己効力</td> <td>45%</td> </tr> <tr> <td>決断力</td> <td>55%</td> </tr> <tr> <td>寛容</td> <td>68%</td> </tr> </tbody> </table>	コンピテンシー	割合	論理的思考	35%	個人的実行力	45%	自己効力	45%	決断力	55%	寛容	68%
		コンピテンシー	割合											
論理的思考	35%													
個人的実行力	45%													
自己効力	45%													
決断力	55%													
寛容	68%													
<ul style="list-style-type: none"> 算数や国語を中心とした授業, 総合・生活科での探究活動など, 様々な教育活動の中で自己決定場面を意識して設定したことで, 過半数の児童の「決断力」が伸びた。 異学年による各教科での自立学習や総合・生活科での協働学習を通して, 自然に教え合い学び合う機会が増えたことから, 約7割の児童の「寛容」(相手を理解し許容する態度)が向上した。 														



④ 児童アンケート結果

＜異学年集団での「学習計画表を使って自分で学習を進める授業」について＞

区分	質問項目	肯定的評価
主体性	これまでより自分から進んで取り組めた	86%
理解度	これまでより分かりやすかった	86%
満足度	今後もこういう授業を続けたい	90%

【主なコメント】
 ・分からないところは友達と教え合って、自分でできるところは自由に進められるのでやりやすかった。
 ・他の学年と一緒にやると、分からないところを聞きやすかった。

⑤ 教職員インタビュー結果

区分	主なコメント
指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人の実態を把握し、適切な支援をしていくことで、学力を向上させることができる。 ・児童が学習内容を理解し、基礎学力を向上させるためには、教材研究が重要だと分かった。 ・継続的に取り組み、子供たちに学び方が身に付けば、主体的な学びにつながると感じている。
児童の反応・変化	<ul style="list-style-type: none"> ・異学年での学びを取り入れてみると、子供たちが生き生きと学習に取り組む姿が見られた。下学年の子へ教える喜びを感じたり、周りがかんがっている友達がいる環境がやる気につながったりしている。 ・自分で学習を進めないといけないという子供たちの思いが「主体性」につながったと思う。

課題と対応

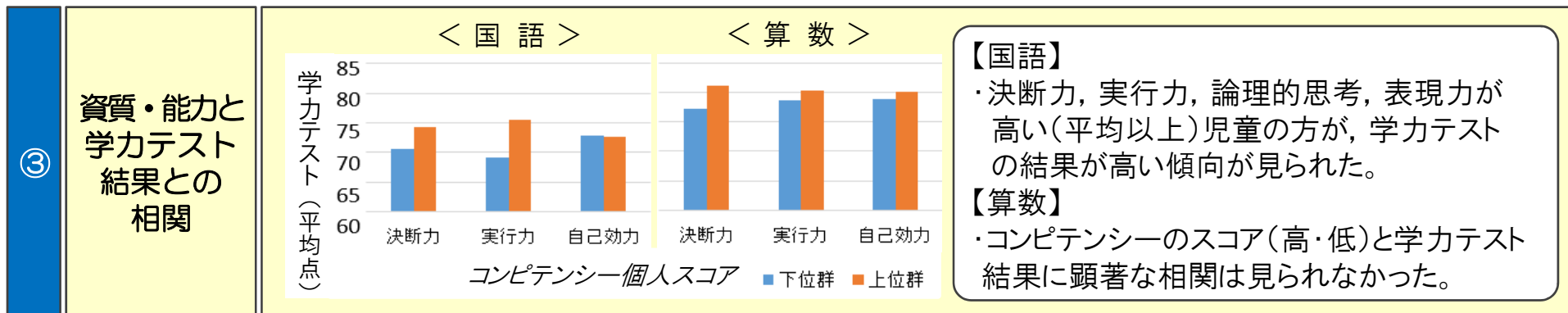
残された課題	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的思考力の伸びを向上させるため、思考力等を発揮させる場を位置付けた単元づくりが必要。 ・異年齢集団による自立・協働学習の型はできたが、資質・能力を向上させるために内容の充実が必要。
今後の対応(R3年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科において、教材研究を充実させるとともに、異年齢の良さを生かした授業づくりに取り組む。 ・総合的な学習の時間等における異年齢での探究学習について、学年に応じた目標や身に付けた力を明確にして、カリキュラムの更なる充実を図る。

3-③ 教育効果等の分析サマリー(みらさか小学校)

実証研究概要	学校重点目標	自立と共生の力をもち、主体的に学び、課題解決する児童の育成
	育成したい資質・能力	学びに向かう意欲、課題発見・解決力、対話力、振り返る力、思いやり
	実証手法 (自己決定場面)	単元別プロジェクト学習 -単元のプロジェクトを達成するための学習計画を自分で作成し、自分のペースで学習 -学習方法を自分で選択～教科書、プリント、タブレットなど
	測定コンピテンシー	論理的思考、実行力、自己効力、決断力、表現力、寛容 (AiGrow活用:R2.7→R3.2)
	学力テスト	算数、国語 (東京書籍:標準学力調査 R3.1)

①	資質・能力の相関	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 自己決定するほど実行力や自己効力が高まり、実行するほど自己効力が高まる傾向あり。 ➤ 論理的思考・実行力と表現力・寛容、決断力と表現力にそれぞれ相関が見られた。 			
		区分	内容	割合	相関係数
		決断力 - 実行力	決断力が伸びた児童(53%)のうち、実行力も伸びた児童	64%	0.726
		決断力 - 自己効力	決断力が伸びた児童(53%)のうち、自己効力も伸びた児童	75%	0.536
		実行力 - 自己効力	実行力が伸びた児童(44%)のうち、自己効力も伸びた児童	80%	0.665

②	資質・能力の変容	<p><各コンピテンシーが伸びた児童割合></p> <table border="1"> <caption>各コンピテンシーが伸びた児童割合</caption> <thead> <tr> <th>コンピテンシー</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>論理的思考</td> <td>55%</td> </tr> <tr> <td>個人的実行力</td> <td>45%</td> </tr> <tr> <td>自己効力</td> <td>55%</td> </tr> <tr> <td>決断力</td> <td>55%</td> </tr> <tr> <td>表現力</td> <td>55%</td> </tr> <tr> <td>寛容</td> <td>50%</td> </tr> </tbody> </table>	コンピテンシー	割合	論理的思考	55%	個人的実行力	45%	自己効力	55%	決断力	55%	表現力	55%	寛容	50%	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で単元の学習計画を作ることで、先を見通し、筋道を立てて考える機会が増えたことから、「論理的思考力」が向上した。 ・各教科の授業を中心に教育活動の中で自己決定場面を意識して設定したことから、「決断力」が伸びた。 ・自己決定や実行を繰り返すことで、「自己効力」が向上した。
		コンピテンシー	割合														
論理的思考	55%																
個人的実行力	45%																
自己効力	55%																
決断力	55%																
表現力	55%																
寛容	50%																



④ 児童アンケート結果

<自分に最適な学びの方法を選択・決定して進める授業について>

区分	質問項目	肯定的評価
主体性	これまでより自分から進んで取り組めた	92%
理解度	これまでより分かりやすかった	94%
満足度	今後もこういう授業を続けたい	88%

【主なコメント】

- ・自分のペースででき, 友達にさりげなく聞けるので分かりやすい。
- ・自分で決めるから, 次にどうすれば良いかすぐにわかる。
- ・中学校に入るための練習みたいで, とてもためになった。

⑤ 教職員以外への結果

区分	主なコメント
指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が一つ一つ指示を出さなくても, 児童の力で学習を進められることに改めて気づいた。 ・個に応じた指導における一人一人の見取りや評価の重要性, 必要性を感じた。 ・子供たち一人一人の様々な状況に対応できるように, 事前準備をより行うようになった。
児童の反応・変化	<ul style="list-style-type: none"> ・分からないことを児童同士で聞き合う姿が増えた。選択して活動することに積極的になった。 ・自分で計画を見て自分から学習に取り組むことが増えた。「こうしたい」と言う児童が増えた。 ・それぞれのペースで進めることができるため, 児童の退屈な時間が減った。

課題と対応

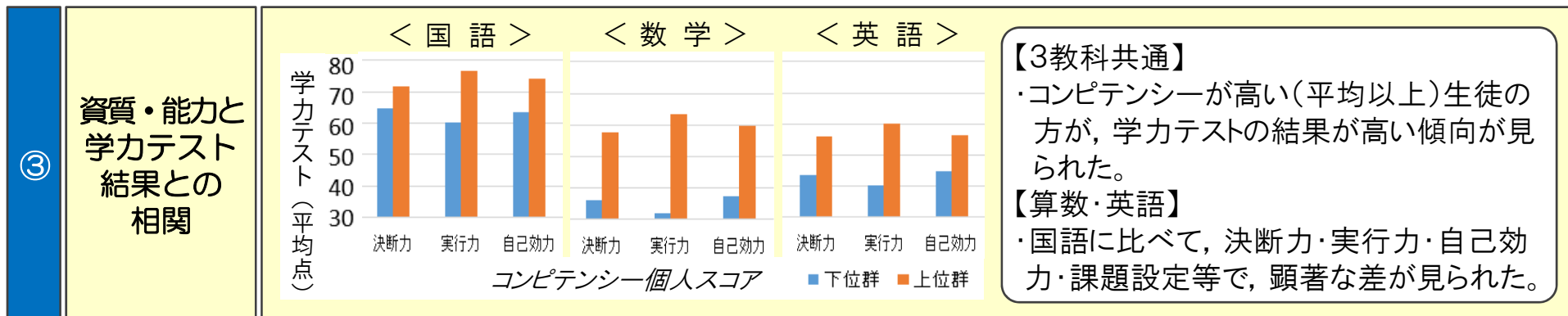
残された課題	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の授業において, 自己決定場面が少なく, 自立的な学びを習慣化できていない。 ・児童の学習状況の見取りと評価及び個に応じた指導の想定が不十分。
今後の対応(R3年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の授業において, 知識・技能習得場面を含めて児童に委ねる場面の設定を増加させる。 ・小中一貫校であることを生かし, 9年間を見通した「学び方」を学ぶ取組を充実させる。 ・学習のポートフォリオ化と評価のシステムを確立し, 個に応じた指導を充実させる。

3-④ 教育効果等の分析サマリー(三良坂中学校)

実証研究概要	学校重点目標	自立と共生の力をもち、主体的に学び、課題解決する生徒の育成
	育成したい資質・能力	学びに向かう意欲、課題発見・解決力、対話力、振り返る力、思いやり
	実証手法 (自己決定場面)	単元別プロジェクト学習 - 単元のプロジェクトを達成するための学習計画を自分で作成し、自分のペースで学習 - 学習方法を自分で選択～教科書、プリント、タブレットなど
	測定コンピテンシー	課題設定, 論理的思考, 創造性, 実行力, 自己効力, 決断力, 表現力, 寛容など (AIGrow活用: R2.7→R3.2)
	学力テスト	国語, 数学, 英語 (東京書籍: 標準学力調査 R3.1)

①	資質・能力の相関	<ul style="list-style-type: none"> 自己決定するほど実行力や自己効力が高まり、実行するほど自己効力が高まる傾向あり。 その他、課題設定と実行力、論理的思考・自己効力・表現力と組織への働きかけに相関あり。 			
		区分	内容	割合	相関係数
		決断力 - 実行力	決断力が伸びた生徒(44%)のうち、実行力も伸びた生徒	63%	0.717
		決断力 - 自己効力	決断力が伸びた生徒(44%)のうち、自己効力も伸びた生徒	70%	0.750
		実行力 - 自己効力	実行力が伸びた生徒(42%)のうち、自己効力も伸びた生徒	65%	0.682

②	資質・能力の変容	<p><各コンピテンシーが向上した生徒割合></p>	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトを進める中で、疑問を持ったり、課題を設定して解決する機会が増えたことから、「課題設定」が伸びた。 自分の意見や考えを表現するプロジェクトを多く設定していたことから「表現力」が伸びた。 小学校に比べて、教育活動の中での自己決定場面が少なかったことが、小・中の「決断力」の伸びの差に影響した。
---	----------	----------------------------------	--



④ 生徒アンケート結果

＜自分に最適な学びの方法を選択・決定して進める授業について＞

区分	質問項目	肯定的評価
主体性	これまでより自分から進んで取り組めた	97%
理解度	これまでより分かりやすかった	86%
満足度	今後もこういう授業を続けたい	92%

【主なコメント】
・自分の課題を見つけることができ、考えを深められる。
・自分たちでやらないといけないから積極的にできる。
・自分に合った勉強方法ができるため効率的だと思う。

⑤ 教職員以外への結果

区分	主なコメント
指導・支援	・ハードルが高いと感じても、生徒の学ぶ力を信じて、委ねてみるのが大切。 ・教師側の学習内容に対する深い理解、「やっただけ」にならないよう詳細な準備が必要である。 ・一方的に話す場面が多い授業をした時、「申し訳ない、面白くないだろうな」と思うようになった。
生徒の反応・変化	・学力に課題がある生徒も、主体的に学習していた。評価問題においても成果が出ていた。 ・分からなくてもとりあえずやってみよう、調べてみようとする生徒が増えた。 ・もっとできるという向上心を持った行動や、諦めない姿勢が見られた。

課題と対応

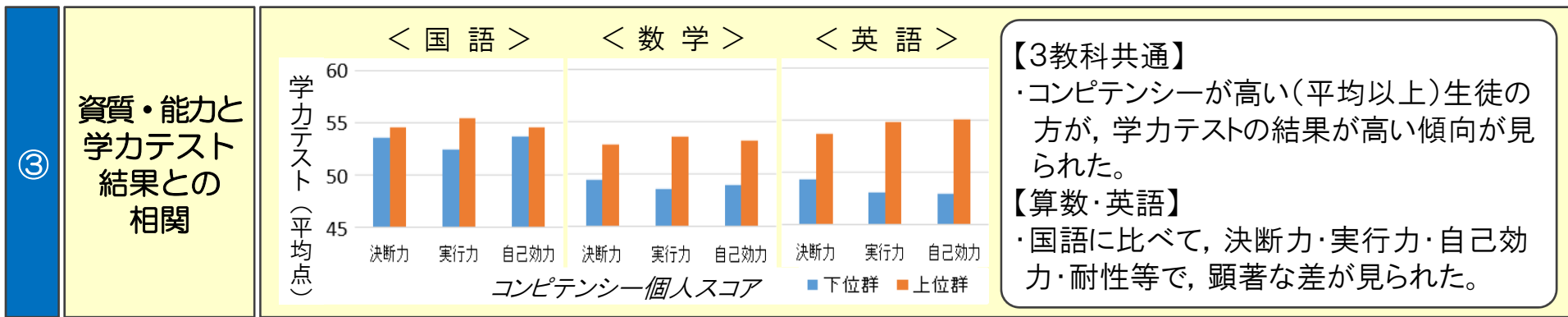
残された課題	・自己を認識し、自分で学習を調整する力の育成が不十分。 ・各教科の学力の定着，重点的に育成を目指す資質・能力の向上を意識した授業改善が必要。
今後の対応 (R3年度)	・各教科，領域において，生徒が自己決定する場の設定を増加させる。 ・小中一貫校の良さを生かし，9年間を見通した「学び方」を学ぶ取組を充実させる。 ・生徒の学習状況の見取りと評価システムを確立し，個に応じた指導を充実させる。

3-⑤ 教育効果等の分析サマリー(福山中学校)

実証研究概要	学校重点目標	創造的な知性と豊かな心の調和的發展を図り, 国際社会に貢献できる人間を育成
	育成したい資質・能力	情報整理力, 表現力, 課題解決力, 協働, 自他の尊重, チャレンジ精神
	実証手法 (自己決定場面)	興味関心に応じたMy探究 - 各自の興味関心に基づいて探究テーマを決定(個別の問いや課題の設定) - 活動内容・方法・場所・時間・ペースなど全て自分で企画し, 実行・振り返り・改善を繰り返す
	測定コンピテンシー	課題設定, 論理的思考, 創造性, 実行力, 自己効力, 決断力, 表現力, 柔軟性など (AiGrow活用:R2.7→R3.2)
	学力テスト	算数, 国語, 英語 (ベネッセ:学力推移調査 R3.11)

①	資質・能力の相関	<ul style="list-style-type: none"> 自己決定するほど実行力や自己効力が高まり, 実行するほど自己効力が高まる傾向あり。 その他, 実行力と課題設定・論理的思考・耐性・柔軟性にも相関が見られた。 																
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>内容</th> <th>割合</th> <th>相関係数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>決断力 - 実行力</td> <td>決断力が伸びた生徒(52%)のうち, 実行力も伸びた生徒</td> <td>73%</td> <td>0.707</td> </tr> <tr> <td>決断力 - 自己効力</td> <td>決断力が伸びた生徒(52%)のうち, 自己効力も伸びた生徒</td> <td>74%</td> <td>0.675</td> </tr> <tr> <td>実行力 - 自己効力</td> <td>実行力が伸びた生徒(52%)のうち, 自己効力も伸びた生徒</td> <td>77%</td> <td>0.650</td> </tr> </tbody> </table>	区分	内容	割合	相関係数	決断力 - 実行力	決断力が伸びた生徒(52%)のうち, 実行力も伸びた生徒	73%	0.707	決断力 - 自己効力	決断力が伸びた生徒(52%)のうち, 自己効力も伸びた生徒	74%	0.675	実行力 - 自己効力	実行力が伸びた生徒(52%)のうち, 自己効力も伸びた生徒	77%	0.650
		区分	内容	割合	相関係数													
		決断力 - 実行力	決断力が伸びた生徒(52%)のうち, 実行力も伸びた生徒	73%	0.707													
		決断力 - 自己効力	決断力が伸びた生徒(52%)のうち, 自己効力も伸びた生徒	74%	0.675													
実行力 - 自己効力	実行力が伸びた生徒(52%)のうち, 自己効力も伸びた生徒	77%	0.650															

②	資質・能力の変容	<p><各コンピテンシーが向上した生徒割合></p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分がやりたいことについて自分で目標を設定し, 達成に向けて工夫しながら取り組むことで, 6割近い生徒の「創造性」「ヴィジョン」「柔軟性」などが伸びた。 自分のプロジェクトを進めるために, いつ, どこで, 何をすべきか, 全て自己決定し, 試行錯誤しながら粘り強く実行・改善を繰り返すことで過半数の生徒の「決断力」「実行力」「自己効力」「耐性」などが伸びた。
---	----------	----------------------------------	---



④ 生徒アンケート結果

<自ら課題設定し、自分のやり方・ペースで実行していくMY探究について>

区分	質問項目	肯定的評価	区分	質問項目	肯定的評価
主体性	以前の総合よりも主体的に取り組めた	95%	自己認識	以前より自己認識の機会が増えた	93%
習得度	以前の総合よりも資質・能力が向上した	94%	自己選択	以前より自己選択の機会が増えた	92%
満足度	今後もこういうMY探究を続けていきたい	94%	自己表現	以前より自己表現の機会が増えた	91%

⑤ 教職員1人1人結果

区分	主なコメント
指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒の失敗」を恐れなくなった。自分も「失敗を恐れずやってみよう」と思えるようになった。 ・生徒の学びが沸き起こるまで信じて待てるようになったし、生徒への声掛けも変わった。 ・担当教科の授業でも、コンピテンシーをより意識した活動を計画し、実践することができた。 ・自分がしゃべりすぎた授業(理科)は、「うまくいかなかった」と捉えるようになった。
生徒の反応・変化	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から動き出さないと何も変わらないことに気付いて、行動を起こすようになった。 ・動く力や考える力に大きな変化があった。自由という難しさに自ら踏み込んでいく姿があった。 ・生徒集団全体が自信を持ったと感じる。無意識に「やればできる」と感じている生徒が増えた。

課題と対応

残された課題	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと社会との繋がりを意識させて、全ての生徒が主体的に行動を起こすような仕掛けが必要。 ・各教科の授業にも探究学習を取り入れるなど、資質・能力の向上を意識した授業改善が必要。
今後の対応(R3年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・異学年混合のゼミ方式にして、全教職員が積極的に生徒にファシリテートできる環境を作り出す。 ・学校外での探究フェスなど、外部の人たちを巻き込んだ生徒主導のMY探究の実行場面を設定。 ・各教科における探究学習の充実、資質・能力の評価を適切に授業改善に生かすサイクルの定着。

Q) 中央教育審議会の答申(R3.1)にある「個別最適な学び」と、本県の当該提案にある「個別最適な学び」は、同じ捉えなのか？

A)

○中央教育審議会の答申では、2020年代を通じて実現を目指す「令和の日本型教育」の姿を「全ての子供たちの可能性を引き出す『個別最適な学び』と『協働的な学び』」とし、これらの学びを一体的に充実し、子供たちの資質・能力を確実に育成するため、新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが必要であると述べている。

○また、学習指導要領にも明記されている「個に応じた指導」の在り方について、「指導の個別化」と「学習の個性化」という2つの観点から具体的に示した上で、これらを学習者の視点から整理した概念が「個別最適な学び」であると定義している。

○さらに、この「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、これまでも重視されてきた「協働的な学び」を充実することも重要であると述べている。

○本県では、国の動きに先駆けて、R2年3月に当該提案を整理しており、その中で使っている『個別最適な学び』とは、中央教育審議会の答申が定義する「個別最適な学び」と「協働的な学び」を両方とも含む一体的なものとして捉えている。

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して
～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)【概要】

第Ⅰ部 総論

令和3年1月26日
中央教育審議会

1. 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

- 社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来
- 新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」

新学習指導要領の着実な実施

ICTの活用

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

2. 日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動きについて

成果

- 学校が学習指導のみならず、生徒指導の面でも主要な役割を担い、児童生徒の状況を総合的に把握して教師が指導を行うことで、子供たちの知・徳・体を一体で育む「日本型学校教育」は、諸外国から高い評価
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、全国的に学校の臨時休業措置が取られたことにより再認識された学校の役割
①学習機会と学力の保障 ②全人的な発達・成長の保障 ③身体的、精神的な健康の保障（安全・安心につながる可以保证の居場所・セーフティネット）

課題

子供たちの意欲・関心・学習習慣等や、高い意欲や能力をもった教師やそれを支える職員の力により成果を挙げる一方、変化する社会の中で以下の課題に直面

- 本来であれば家庭や地域でなすべきことまでが学校に委ねられることになり、結果として学校及び教師が担うべき業務の範囲が拡大され、その負担が増大
- 子供たちの多様化（特別支援教育を受ける児童生徒や外国人児童生徒等の増加、貧困、いじめの重大事態や不登校児童生徒数の増加等）
- 生徒の学習意欲の低下
- 教師の長時間勤務による疲弊や教員採用倍率の低下、教師不足の深刻化
- 学習場面におけるデジタルデバイスの使用が低調であるなど、加速度的に進展する情報化への対応の遅れ
- 少子高齢化、人口減少による学校教育の維持とその質の保証に向けた取組の必要性
- 新型コロナウイルス感染症の感染防止策と学校教育活動の両立、今後起こり得る新たな感染症への備えとしての教室環境や指導体制等の整備

教育振興基本計画の理念
（自立・協働・創造）の継承

学校における
働き方改革の推進

GIGAスクール構想の
実現

新学習指導要領の
着実な実施

必要な改革を躊躇なく進めることで、従来の日本型学校教育を発展させ、「令和の日本型学校教育」を実現

3. 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

①個別最適な学び（「個に応じた指導」（指導の個別化と学習の個性化）を学習者の視点から整理した概念）

- ◆ 新学習指導要領では、「個に応じた指導」を一層重視し、指導方法や指導体制の工夫改善により、「個に応じた指導」の充実を図るとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整えることが示されており、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ることが必要
- ◆ GIGAスクール構想の実現による新たなICT環境の活用、少人数によるきめ細かな指導体制の整備を進め、「個に応じた指導」を充実していくことが重要
- ◆ その際、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、学びの動機付けや幅広い資質・能力の育成に向けた効果的な取組を展開し、個々の家庭の経済事情等に左右されることなく、子供たちに必要な力を育む

指導の個別化

- 基礎的・基本的な知識・技能等を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するため、
・支援が必要な子供により重点的な指導を行うことなど効果的な指導を実現
・特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行う

学習の個性化

- 基礎的・基本的な知識・技能等や情報活用能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、子供の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する

- ◆ 「個別最適な学び」が進められるよう、これまで以上に子供の成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められる
- ◆ その際、ICTの活用により、学習履歴（スタディ・ログ）や生徒指導上のデータ、健康診断情報等を利活用することや、教師の負担を軽減することが重要

それぞれの学びを一体的に充実し 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる

②協働的な学び

- 「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要
- 集団の中で個が埋没してしまうことのないよう、一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びを生み出す
- 知・徳・体を一体的に育むためには、教師と子供、子供同士の関わり合い、自分の感覚や行為を通して理解する実習・実験、地域社会での体験活動など、様々な場面でリアルな体験を通して学ぶことの重要性が、AI技術が高度に発達するSociety5.0時代にこそ一層高まる
- 同一学年・学級はもとより、異学年間の学びや、ICTの活用による空間的・時間的制約を超えた他の学校の子供等との学び合いも大切

具体的な実践事例① ～廿日市市立宮園小学校～

既読
15:31

宮園小学校ではどんな取組をしているの？

学校教育目標を「自分を育て みんなで伸びる」と設定し、自立・多様性の尊重・挑戦という3つのキーワードをもとに教育活動を行っています。

15:33

学校教育目標

自分を育て みんなで伸びる

—自立・多様性の尊重・挑戦—



自分を理解し、自ら学び続ける子

15:33

このうち「自立」について、「自分を理解し、自ら学び続ける子」と定義し、そういう子供を育てる具体的な方策として、学習計画表に基づく「単元内自由進度学習」に取り組んでいます。

15:34

付けたい力を具体化して、みんなで共有しているのはいいね。単元内自由進度学習って、どんな学習方法なの？

既読
15:35

これは4年生算数「分数」単元の学習計画表です。

15:36

単元内自由進度学習では、導入場面で、この学習計画表を子供たちと共有します。子供たちは、学習計画表をもとに、自分のペースで学習を進めています。

15:36

算数「分数」 ～とんとん～

めあて	理解度チェック ○ ○ △				
	教科書の基本問題	練習問題	チェックテスト	キュービナ	
① 【一斉】 分数を3つの仲間に分けることができる。	P73 1	2			
仮分数を帯分数に直すことができる①	P74 3	P75 4	5		
② 仮分数を帯分数に直すことができる②			練習問題2② 裏山用に入れる	*1	
帯分数を仮分数の直すことができる①	P76 6	P77 7	8 9		1
③ 帯分数を仮分数の直すことができる②			練習問題3② 裏山用に入れる	*2	
④ 分数の計算の仕方を考えて、計算ができる。	P78 1	2	3 4		
⑤ 帯分数がいった計算の仕方を考える。	P79 1	2	3 4	*3	2

15:37

具体的な実践事例① ～廿日市市立宮園小学校～

自分のペースで進められるって、とても興味深いね！
具体的には、子供たちはどうやって学習を進めるの？

既読
15:37

学習計画表に書かれているめあてを確認し、教科書やプリント、タブレットを用いて、自分で学びを進めます。

15:38

自分のペースで学びを進めるため、同じ時間でも、4時間目の課題に取り組む子もいれば、5時間目の課題を学んでいる子もいます。

15:38



15:38

写真を見ても、学び方が様々でおもしろいね。
そういえば、宮園小は一人一台のタブレットが整備されていたよね。タブレットはどのように活用しているの？

既読
15:39

AI型タブレット教材「Qubena」を活用しています。
通常のドリルと違って、新しい内容を学ぶ際の説明画面や誤答に対するフォロー画面があります。

15:40

それに、子供たちの誤答傾向をAIが分析して、その子に最適な問題を提示してくれるんです！

15:40

それはすごいね！まさしく個別最適な学びじゃない。

既読
15:41

でも、タブレットだけやれば、個別最適な学びになるというわけではないんです。タブレットで学びたい子もいれば、教科書やプリントで学びたい子もいます。

15:42

タブレットも選択肢の一つなんです。これが、宮園小学校が考える選択肢と子供たちの自己決定場面なんですよ。

15:42

キーワードは『選択肢』と『自己決定』だね！

既読
15:43

具体的な実践事例① ～廿日市市立宮園小学校～

動画を見ると、子供たちが自分の課題を黙々と進めているようだけど、ちょっと寂しい気もするなあ。

既読
15:45

個別に学習を進めるだけでなく、子供たち同士が教え合う姿も見られます。このように、課題が早く終わった子は、分からない友達に教えてあげることもあります。

15:46



15:46

教えている子にとっても、身に付けた知識・技能を発揮する良い機会になっています。

15:47

それなら納得！！

既読
15:48

こういった協働ができる雰囲気の中で、個々の課題を進められるなら、子供たちも安心して学びに向かうことができるね。

既読
15:48

ところで、子供たちが学んでいる間、先生は何をしているの？

既読
15:49

つまづいている児童を中心に、個別に支援をしています。

15:50

子供たちの状況に応じて、数人を集めて説明したり、みんなで考えた方が効果的な場面では一斉指導をしたりすることもあります。

15:50



15:51

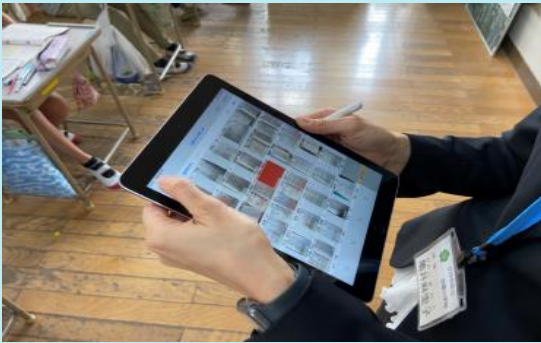
具体的な実践事例① ～廿日市市立宮園小学校～

子供たちが自分のペースで学んでいるなら、進度も違うと思うけど、子供たち一人一人の学びの状況を、どうやって把握しているの？

既読
15:51

ICTが得意な先生は、オンライン上に提出された課題（ノートやチェックテスト）をチェックしたり、アナログが好きな先生は、名簿などを使って、一人一人の状況を細かく把握したりしています。

15:53



15:54

自分に合った方法で、子供たち一人一人の学びを把握しようとしているんだね。でも、進度が違う子供たちの学びの状況を把握し、一人一人に適切に支援をするって、大変そうだね。

既読
15:55

確かにそうかもしれません。ただ、どの子も自分で学ぶ力をもっています。自分で教科書を読み、問題を解き、答え合わせをするなど、子供たち自身で学びを進めることを大切にしています。

15:56

もちろん、必要に応じて個別に支援をすることもあります。子供たち同士で解決できることも多いです。

15:56

確かに、子供たちを信じることも大切だよ。そして、子供たち一人一人の学びを支えるのが先生の役割だよ！

既読
15:57

私たちは、子供たちが自分で学びを進めることができるように、教材研究に力を入れています。

15:58

特に学習計画表づくりには力を入れていて、チームで検討しながら計画表をつくり上げています。

15:58

具体的な実践事例① ～廿日市市立宮園小学校～

既読
15:59

実際に取り組まれた先生方の声を聞いてみたいなあ♪



令和2年度の2学期が終わった段階での先生方へのインタビュー動画があるので是非ご覧ください！

16:00



「子供が分からないという声を上げ、助けを求めることができるようになった」「一斉指導の時は真ん中の子に合わせて授業を進めていたけど、個に寄り添って支援ができるようになった」などの声を聞かせてもらいました。

16:01

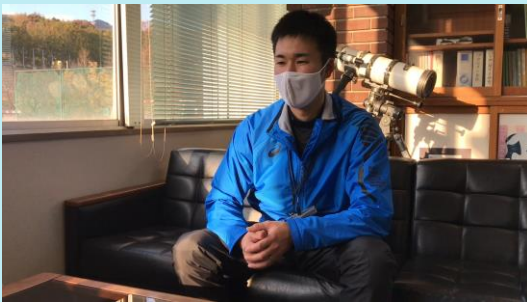


16:02



「子供たちが自分でやろうとする姿が見えてきた。」「自分で分かるようになってくるとか、本気で取り組もうと思うようになってきた。」という声もありました。

16:05



16:06



「子供たちの進度が様々だと、見取りが難しい。」という声もありましたが、実際には、かなりの確に一人一人の見取りを行われていました。

16:09



16:10

具体的な実践事例① ～廿日市市立宮園小学校～

既読
16:12

先生方からこんな声があるんだけど、どうかな？

子供たちに学びを委ねようと思い、「学習計画表に沿って自分で進めて！」と投げかけたら、あちこちで「分からない！」という声があがって收拾がつかなくなりました。本当にこれで良かったのでしょうか？うちのクラスでは無理な気がします…

既読
16:13

なるほど！うちでも同じようなことがありました。

16:13

既読
16:14

宮園小では、どのように対応しているの？

そこはやはり教材研究を深めるしかないんですよ！だから、学習計画表づくりに力を入れています。

16:15

特に、子供たちの実態を把握し、「子供たち自身で学習を進めていくことができるかどうか」ということを重視して、学習計画表の検討を重ねています。

16:15

例えば、3年生算数「かけ算」の学習計画表ですが、単元の導入で『みんなで考える』という時間を4時間設定し、学び方を学ぶようにしています。この時間を何時間にするのか、何度も検討を重ねました。

16:16

	めあて	目安時間	教科書	キューベナ	チェックテスト
①	「1けたをかけるかけ算の筆算」の学習の進め方を知る。か題を知る。 〈みんなで考える〉 20×3 , 200×3 の計算のしかたを考えて、せつ明することができる。	1	22,23		
②	〈みんなで考える〉 12×4 の計算のしかたを考えて、せつ明することができる。	1	24	コークブック	
③	〈みんなで考える〉 12×4 のようになり上がりがないかけ算を筆算で計算することができる。	1	25	コークブック	
④	〈みんなで考える〉 24×3 のようになり上がるかけ算を筆算で計算することができる。	1	26		

16:16

なるほど。やはり教材研究が大事なんだよね！単元内自由進度学習って、学びを子供に委ねることが多いから、学習計画表を含め、学習環境の準備が必要だよ。

既読
16:17

その他、子供たち自身がめあてを達成できたかどうか判断できるように言葉を吟味したり、単元のどこでつまずきそうかを考えて、学習活動を工夫したりしています。

16:18

具体的な実践事例① ～廿日市市立宮園小学校～

既読
16:19

いろいろ考えられているなあ。他にもこんな声があるんだけど。

既読
16:20

授業の中で選択肢を設けたり、子供自身に自己決定させたりするのは大事だと思うのですが、低学年の子供には、自己決定することって難しいと思うんです。

既読
16:20

最初は、自己決定よりも、丁寧に教えることの方が大事なのではないでしょうか？

なるほど！うちでもそういう声はありました。

16:21

宮園小学校では、単元内自由進度学習を始めるのは、3年生からなんですよ。でも、単元内自由進度学習をすることが目的ではないんですよ！

16:21

目的は、自分を理解し、自ら学び続ける子を育てることです。だから、教室にいる子供たちの実態を見て、付けたい力を付けるために何ができるのかを考えています。

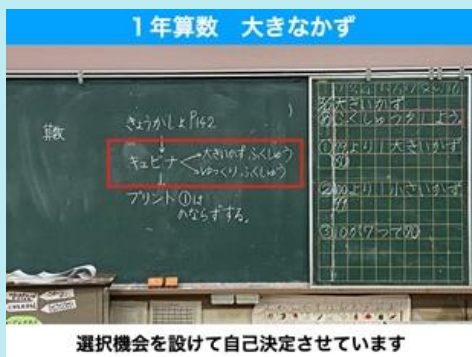
16:22

既読
16:23

それで、低学年の子供たちは具体的に何をしているの？

これを見てください。一年生の算数の授業の様子です。

16:24



16:24

45分の授業の中で、少しずつ選択場面を設けて、子供たちに自己決定させています。答え合わせなども自分たちで取り組ませています。結構、自分でできますよ！

16:25

既読
16:26

確かに、こういう取組だったら、低学年でもできそうだね。選択場面の設定を難しく捉えなければ、いろいろできそうだ！

具体的な実践事例① ～廿日市市立宮園小学校～

既読
16:27

もう一つ聞いても大丈夫？実践してみた先生からのコメント。

既読
16:28

単元内自由進度学習に挑戦してみたのですが、子供たちの学ぶ様子を見ていて、思考の深まりが感じられないんです。

既読
16:28

自分が授業を進めた方が深い学びに迫ることができると思うんです。実際、単元テストにおいて、思考力・判断力・表現力の結果が良くなって、どうしたらいいのでしょうか？

実は、うちも同様の課題を感じています。

16:29

3学期に行った授業研究、4年生算数の「分数」の単元の取組について紹介しますね。

16:31

めあて	理解度チェック ○ ○ △			
	教科書の基本問題	練習問題	チェックテスト	キュービナ
① 【一斉】 分数を3つの枠間に分けることができる。	P73 1	2		
仮分数を帯分数に直すことができる①	P74 3	P75 4	5	
② 仮分数を帯分数に直すことができる②			練習問題①② 提出前に入れる	*1



16:31

仮分数を帯分数に直すという学習活動について、意味を理解せずに操作だけを行うことが事前に想定されたので、タブレットを活用した操作活動を学習計画表に位置付けて、分数を数として理解できるよう工夫しました。

16:32

このように、教材研究に基づき、学習計画表を工夫することが、1つ目のアプローチです。

16:32

教室には、タブレットだけでなく教具なども充実しているみたいだし、子供たちは様々な活動の選択肢の中から、自分に合ったものを選択し、分数を数として理解できるようにしているね。

既読
16:33

写真のような活動も、先生方がチームで学習計画表を検討する中で出てきたんですよ。特に、前学年の教科書を見ていくと、子供たちのつまづきに対する具体的な手立てがイメージしやすくなると、先生方は話していました。

16:34

チームで教材研究って、イイね！！楽しく授業づくりできそう。

既読
16:35

具体的な実践事例① ～廿日市市立宮園小学校～

こちらは5年生算数「割合とグラフ」の単元の取組です。

16:36

回	日にち	めあて	全					
			教科書	ワーク	辞書	キーボード	プリント	その他
1	/	①両グラフや円グラフの特徴が分かる。 ②両グラフと円グラフの割合を読み取り、比べることができる。	200-201	1	9	14-1・3	1	2
2	/	①全体をもとにしてそれぞれの割合を求めることができる。 ②両グラフと円グラフをかきことができる。	202-203	2	10			3
3	/		204-205		11	14-3		4
4	/	①2つのグラフを比べて、分かることを読み取ることができる。	見てみよう					ふ



16:37

思考力・判断力・表現力を発揮させる場をつくるために、問題づくりの活動を学習計画表に位置付けました。子供たちは、社会科の学習と関連させて様々な問題を作って、互いに解き合いました。

16:38

なるほど！自由進度で進んでいても、このような学習活動があると自然に協働する場面が生まれてくるね。しかも、問題を作ろうと思うと、答えや解説を考えなくてはいけなから、思考力・判断力・表現力を発揮することにつながるね！

既読
16:39

子供たち同士で間違いを指摘し合う姿や、自分たちが作った問題を進んで解こうとする姿が見られました！

16:40

社会科の学びとつなげることで、子供たちが意欲的になりました。このように、単元構成を工夫し、効果的に協働的な学びを位置付けていくのが2つ目のアプローチです。

16:40

なるほど～！
宮園小も日々試行錯誤しながら取組を進めているんだね！

既読
16:41

中央教育審議会の答申で述べられていた個別最適な学びと協働的な学びを一体的に進める具体的な姿を見た気がしたよ！

既読
16:41

ありがとうございます！取組はまだですが、先生方が全ての子供たちの主体的な学びの実現に向けて、協働的に取り組む姿には、本当に感心しています。これからもチーム宮園で頑張っていきたいです！

16:42

今日は長時間ありがとう！また色々話を聞かせてね♪

既読
16:43

具体的な実践事例② ～江田島市立三高小学校～

既読
15:25

イエナプラン教育を参考にしているって、どんな取組なの？

学校教育目標は「自ら学び、ともに伸びる子どもの育成」ですが、「自律と共生」を目指すイエナプラン教育の考え方や、かなり親和性があると感じています。

15:26

そこでイエナプラン教育の考え方を参考に、学校教育目標の達成に向けて、教職員みんなで何ができるのかを考え、試行錯誤しながら取り組んでいます。

15:27

既読
15:27

具体的には、どんなことに取り組んでいるの？

まず、イエナプラン教育について知る研修や教職員の心の持ち方・考え方(いわゆるマインドセット)について考える対話会から始めました。

15:28

スタートは県教委(こべたん)が進めるオンライン対話会でしたが、途中から研究主任発案の対話会に切り替わり、今では教職員だけで対話しています。

15:29

対話を重ねることで、教職員のチーム感が高まりました。

15:30

三高小&こべたん ミニ対話の会

対話の流れ

- 16:00-05 イントロダクション (話題提示)
- 16:05-20 小グループ (3~4人で対話)
- 16:20-30 全体共有

テーマ

みなさんが話したいことを！

- 5/28 (木) 主体性って？
- 5/29 (金) もやもや発散会①
- 6/1 (月) 多様性を認めるとは？

三高小&こべたん

この指止まれ！式研修会 Part2

R2.06.17 文責：研究主任

- (1) アンケートを踏まえた現状
- ・アンケートの結果から、ほとんどの先生が「自由対話の会がためになる。」「もっと話したい。」と感じている。
 - ・しかし、学校が再開し、日々の子どもへの対応や授業の準備、会議や出張などに終われるため、休業期間と比べ時間的余裕がない。
 - ・Zoomの使い方にだいぶ慣れてきたと考える。
 - ・対話を重ねることに、「こべたん」と「三高小」の間に一体感が生まれてきており、互いのことを知る機会が増えた。そして、対話を重ねるごとに「癖になるもやもや(対話や研修で消化し切れていない感情のこと)」が生まれてきているため、より対話や研修を重ねていく必要がある。

15:31

既読
15:32

もやもや発散会とか面白そう！
先生たちの「もっと話したい」とか「一体感が生まれる」といった反応が素敵だね。学校が共同体になっている感じがする♪

既読
15:33

対話って時間がかかるけど、チーム学校として取組を進めていくためには大事なことだね。それから、どんな取組をしたの？

具体的な実践事例② ～江田島市立三高小学校～

2学期からイエナプラン教育のワールドオリエンテーション(協働学習)を参考に、異学年グループによる総合的な学習や生活科の授業づくりに取り組んでいます。

15:34



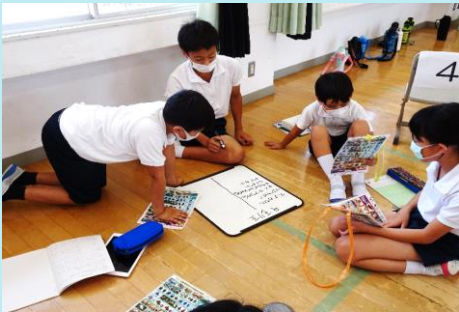
15:36

学年の枠を越えて、みんな楽しそうに活動してるね。異学年のグループはどうやってつくっているの？

既読
15:35

3～6年生が一緒に取り組んでいるんですが、まず、みんなで地域の海探検に出かけ、そこで見つけた不思議や疑問を出し合い、同じことに興味をもった子供たちが集まって、グループを作りました。そして、どんな活動をしていくのか、グループごとに話し合いました。

15:36



15:37

自分が興味をもったことを探究できるのは良いね！イエナプラン教育でも、刺激(事象との出会い)を大事にしているようだけど、しっかり体験する場があるのも良いよね！

既読
15:38

チームごとに課題が違うので対応は大変ですが、課題を自分たちで決めたので、どの子も意欲的に学ぶことができたように思います。

15:39

この後、課題を解決するために、2度目の海探検に出かけたり、インターネットで調べたりしました。

15:39

具体的な実践事例② ～江田島市立三高小学校～



15:39

上学年が下学年に寄り添う感じが素敵だね！自然な教え合いができるのも異学年グループでの学びの良いところだね♪

既読
15:40

上学年の担任に聞いたところ、こういった経験を通して、子供たちの自己肯定感がかなり上がっているようです！

15:41

異学年グループの良さはよく分かったんだけど、困ったことや難しいことってないの？

既読
15:42

異学年の子供たちが同じテーマで活動しているのに、学年によって目標が違うところが難しいところです。

15:43

学年ごとの目標を明確にするとともに、個の実態に合わせて個別に支援するように心掛けています。

15:43

少人数の良さを生かして、個への支援を充実させているんだね。

既読
15:44

ところで、異学年で実践するという事は、子供たちは同じテーマを数年繰り返すことになるの？

既読
15:44

そこは今、検討中です。同じテーマで取り組んでも、年齢や経験が違っていると、取組内容は変わってくるかもしれません。

15:45

前の学年ではできなかったことに取り組みたいと継続的に実践することもできるかもしれません。

15:46

次年度に向けて、大きなテーマは決めておこうと思いますが、何を探究するのかは子供たちと一緒に考えようと思っています。

15:47

具体的な実践事例② ～江田島市立三高小学校～

本来、探究ってそういうものだよな！
カリキュラムも実践しながら、改善していくといった感じだね。

既読
15:48

もちろん、学び方を学ぶための作り込まれたカリキュラムも必要だと考えています。現在(R3. 3月)、新年度の最初に実践するカリキュラムについて、先生方が準備しているところです。

15:49

他にも、2学期後半からは、イエナプラン教育のブロックアワー(自立学習)を参考に、単元内自由進度学習に取り組んでいます。

15:50

具体的には、どうやって進めていったの？

既読
15:50

まずは授業の中に選択肢を取り入れるところから始めました。例えば、授業の中で取り組むプリントなどを複数用意して、子供たちに選択させるといった取組です。

15:51

そうすると、子供たちが今までより主体的に取り組むことができるようになりました。その後、少しずつ単元内自由進度学習に移行していきました。

15:52



学しゅうする ところ	めあて	だしの かじり ペナ	プリント	きょう まの あひら
1 きょう 2～3ページ	新単元でかんがえる 9+4のけいさんのしかたをかんがえることができる。	X	X	○
2 きょう 4ページ	8+3のけいさんのしかたをかんがえることができる。	○	X	△
3 きょう 5ページの3ば	3+9のけいさんのしかたをかんがえることができる。	X	○	○

15:52

提案にも、選択肢と自己決定がキーワードってあったね！
実態に合わせてスモールステップで取り組むのも大事だよな。

既読
15:53

単元内自由進度学習の取組は、実証研究校の1つである宮園小学校の取組を参考にしているので、詳細は、宮園小学校の実践事例を見ていただければと思います。

15:54

具体的な実践事例② ～江田島市立三高小学校～

そうなんだね。三高小学校ならではの取組って
いうのはないの？

既読
15:54

本校は異学年グループの学習活動を大切にしています。

15:55

3学期から、異学年グループでの単元内自由進度学習
にも取り組んでいて、4月からは1～3年、4～6年の異
学年グループでの学習をスタートさせる予定です。

15:55

もちろん、教科の関係もあるので、できるところからにな
ると思いますが。

15:56



15:57

ワールドオリエンテーションと同様に、上学年の子供たちの関
わり方がい雰囲気だね。ところで、先生は何をしているの？

既読
15:57

つまずいている子供たちを集めてミニ指導したり、個別に
支援したりしています。

15:58

これまでの一斉指導と比べて、こうした個別の支援を充
実させることができるのが良いと感じています。

15:58



15:59

3学年が一緒だったら、見取りが大変なんじゃない？

既読
15:59

具体的な実践事例② ～江田島市立三高小学校～

子供同士の教え合いもありますが、一人一人の子供たちの見取りは、今まで以上に大変です。

16:00

既読
16:00

一人一人の見取りは、どのように対応しているの？

この先生の取組を見てください。教室にいる子供たちの学びの状況を名簿を用いてチェックしています。

16:01

このようにして一人一人の学びの状況を把握することで、45分の授業の中で、どの子供にも声をかけることができるので良かったと、話されていました。

16:02



16:03

先生から肯定的なフィードバックがあると、子供もやる気になるよね！しかし教材研究も3学年分となるとかなり大変だね！

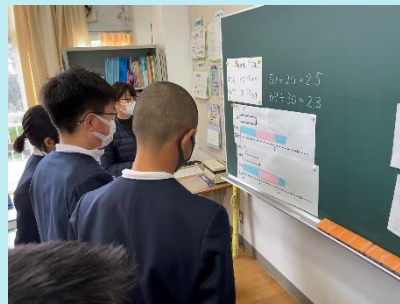
既読
16:04

先生方はチームで教材研究しています。今回の単元は4～6年の担任がチームで教材研究して授業を行いました。

16:05

一人だと難しいこともチームで取り組むことで、先生方は安心して取り組めるようです。

16:06



16:06

どちらの教室でも同じ教具を使っているんだね！確かに、チームで考えると色々なアイデアが出てきて、分かりやすい教具ができそうだね♪

既読
16:07


具体的な実践事例② ～江田島市立三高小学校～

既読
16:08

他にも、先生方からこんな声があるんだけど、どうかな？

既読
16:09

単元内自由進度学習って、自分のペースで学ぶことができていると思いますけど、別の角度から見ると、自習しているだけという気もします。先生たちはどのように捉えていますか？



実は、本校でもそのことが先日話題になって、単元内自由進度学習と自習の違いについて話し合ってみたんですよ。その時のまとめがあるので見てください。

16:10


単元内自由進度学習とは？

単元内自由進度学習		自習
自分で課題を設定して、取り組む	子どもの姿	先生から与えられる課題に取り組む
自分で考えて取り組む		やらされる、こなす
友達に聞いたりしながら協働的に取り組む		一人で黙々と取り組む
先生による個別の支援がある	教師の関わり	先生による個別の支援がない
付けたい力をもとに単元が構成されている		単元構成はない

16 16:10

既読
16:11

なるほど！自分で課題を設定したり、自分で考えたりして取り組めば、自立した学び手になっていくね。そうすると、三高小の学校教育目標の達成につながっていくね。




そうなんです。だから、やらされるとかこなす学びになっていたなら、先生たちは、なぜそうなっているのか要因を考えて、改善していこうとしているんです。

16:12


既読
16:13

付けたい力をもとに単元が構成されているとあるけど、個々がそれぞれに学ぶのに、単元構成があるって、どういうこと？



自立学習は、知識・技能の習得には効率的な部分が多いのですが、思考力・判断力等を習得させるためには、みんなで協働的に学ぶ場面も必要だと思います。

16:14



だから、単元全体を見渡して、どこでどんな力を付けるのかを考えることが大切なんです！

16:14

具体的な実践事例② ～江田島市立三高小学校～

なるほど！単元内自由進度学習も奥が深いね。
他には、どんなところに気を付けて実践しているの？

既読
16:15

本校における単元内自由進度学習と自習の違いを明らかにした後、みんなが思い描く学びをつくるために、何ができるのかについても話し合ってみたんです。

16:16

単元内自由進度学習とは？

単元内自由進度学習	そのためには？
自分で課題を設定して、取り組む	課題発見解決学習の考え方を生かした授業づくり 学び方の指導
自分で考えて取り組む	
友達に聞いたりしながら協働的に取り組む	
先生による個別の支援がある	個別の見取り 個に応じた支援
付けたい力をもとに単元が構成されている	
	教材研究の充実 (単元づくり)

22 16:16

そうすると、様々な手立てが出てきて、それを意識しながら実践していこうという話になってるんですよ。

16:17

すごい！先生たちが自立して授業改善に取り組んでいるね。

既読
16:18

個別の見取りや個に応じた支援、教材研究の充実って、今までも大事にしてきたことだよな！そういった点から考えると、個別最適な学びって、今まで大事にしてきたこととつながるね！

既読
16:18

本当にそう思います。特に教材研究は、とても大切だと実感しています！

16:19

一斉指導と比べて、直接指導する場面が少ないので、事前の準備が授業の成否に大きく影響します。そのため学習計画表づくりには、みんなすごく注力しています。

16:19

なるほど！すごく勉強になったよ。
次年度は、複数教科での単元内自由進度学習にもチャレンジすると言っていたので、またじっくり話を聞かせてね！

既読
16:20


具体的な実践事例② ～江田島市立三高小学校～

既読
16:20

もう一つ、先生方からこんな声があるんだけど、どうかな？

既読
16:21

異学年の子供たちの関わりっていいなと思いますが、3学年を担当する先生方の大変さもあると思います。先生たちは異学年で学ぶ意義をどのように捉えていますか？




実はそのことも先日話題になって、異学年が1つの教室で学ぶことの意義についても、話し合ってみましたよ。

16:22


既読
16:23

それは大事なことだね。やっている先生方が意義を感じてないと、うまくいかないもんね。



そうなんです。そこで、子供たちがどう感じているのか、アンケートを取ってみました。

16:24



すると、多くの子供たちが異学年での学びについて肯定的に捉えていることが分かりました！


16:25

質問項目	肯定的な回答(%)
これまでより自分から進んで取り組むことができましたか？	86%
これまでより自分のペースで取り組むことができましたか？	90%
これまでより分かりやすかったですか？	86%
今後も続けたいですか？	90%

16:25

既読
16:26

子供たちは、かなり前向きに捉えているようだね！
子供たちにとって何が良かったのかな？



子供たちの記述内容を見ると、「他の学年の人たちが教えてくれたから」、「教えるために自分も頑張っ問題が解くことができた」、「他の人のために頑張ろうと思ったから」といった意見が出ていました。

16:26

既読
16:27

これって、三高小学校が目指す「自ら学び、ともに伸びる子供の育成」につながっているね♪

具体的な実践事例② ～江田島市立三高小学校～



また、先生方からは、異学年で学ぶと周りの人とは学習内容や進度が異なるため、人と比べる必要がなくなり、安心して自分のペースで学ぶことができるのではないかという声もありました。

16:28

確かに！同じ内容を同じペースで学んでいると、周りの様子が気になるけど、周りとは学習内容や進度が異なっていると、自分の学習に集中できそうだね！

既読
16:29



異学年の学びを始めて、休憩時間も一緒に遊ぶ姿が増えて、人間関係が広がって良かったなと感じています。

16:30



若手の先生からは、学びを一緒に進めるために、先生同士の協議が活発になり、経験豊富な先生から学ぶ機会が圧倒的に増えて勉強になるという声もありました。

16:31

まさしく、OJT(On the Job Training)だね！
でも、話し合いの時間の確保が難しそうだね。

既読
16:32



そうなんです。だから、授業中でも必要な時に話をするようにしています。次年度は、時程を見直して、放課後に話し合う時間を確保しようと考えています。

16:33

なるほど！新しいことを進めると課題もたくさん出てくるけど、それをやらない理由にせず、どうやったらできるのかを考えながら、取組を進めているんだね！

既読
16:34



先生方は、本当に前向きに取り組んでいます！

16:35



今も、「学習内容を工夫したらもっと異学年の学びが深まるのではないか」などと考えて、同僚と協働しながら、チーム学校として、日々試行錯誤しています。

16:36

今後も楽しみだね。また、取組の様子を聞かせてね。

既読
16:37

具体的な実践事例③ ～三次市立みらさか学園～

みらさか学園で「単元別プロジェクト学習」をしてるって聞いたんだけど！？

既読
15:30

そうそう、今年度そういう取組をしていますよ。

15:30

何それ？なぜそういう取組をしているの？

既読
15:31

今年度の学校教育目標は「自立と共生の力をもち、主体的に学び、課題解決する児童・生徒の育成」なんですけど、その中の「自立」と「共生」を意識した取組なんです。

15:33

へえ～、どういうこと？

既読
15:33

みらさか学園では、「自立」を「自ら学び、自ら考え、自主的・自律的に行動できる」、「共生」を「違いを認め合い、他者と協働して課題解決（創造）できる」と定義していて、そういう子供を育てる具体的な方策として、「単元別プロジェクト学習」に取り組んでいるんです。

15:35

みらさか学園の先生は、『委ねる』授業と呼んでいます！

15:36

学校教育目標

自立と共生の力をもち、
主体的に学び、課題解決する
児童・生徒の育成

◆自ら学び、自ら考え、
自主的・自律的に
行動できる

◆違いを認め合い、
他者と協働して
課題解決（創造）できる

15:36

『委ねる』っていうのが気になるんだけど…

既読
15:37

そうですね！もう少し詳しく説明します。

15:37

この取組は、単元で、プロジェクトやミッションを提示して、それを達成するために子供たちが自分で単元の学習計画を作って進める学習です。

15:38

具体的な実践事例③ ～三次市立みらさか学園～

既読
15:38

自分でどんなことを決めるの？具体的に教えて！

これは、小学6年生国語の「大切にしたい言葉」という単元の学習計画表です。

15:40

「卒業文集に載せる『自分が大切にしたい言葉』ページを作ろう！」というミッションを達成するために、6時間の「学習計画」を立てるんです！

15:40

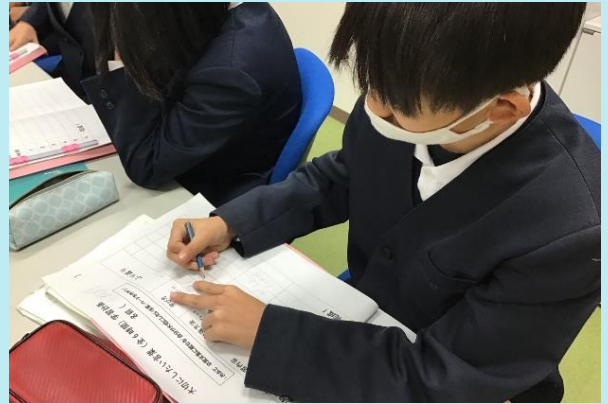
時間ごとに何をするのか、教科書やタブレットなど何を使って学習するのか、個人なのかグループなのかといったことを自分で決めて学習を進めます。

15:41

大切にしたい言葉 (全6時間) 学習計画
名前 ()

めあて 卒業文集に載せる『自分が大切にしたい言葉』ページを作ろう！

授業時間	学習内容	勉強方法 (教科書・タブレット 本など)	学び方 (全株・個人・ ペア・グループ)	振り返り
1				
2				
3				
4				
5				
6	完成!			



15:41

既読
15:42

かなり多くのことを自分自身で決めるんだね！

そう！だから先生たちは『委ねる』授業って呼んでるんです！

15:42

なるほど！先生が授業を子供に委ねて、子供たち自身で決定する。まさに『選択肢』と『自己決定』だね！

既読
15:43

そうなんです。個別最適な学びを進める上で、とても重要です。

15:44

既読
15:44

授業中はどんな様子なの？

子供たちの「学習計画」は一人一人違うから、一つの授業の中ではそれぞれで学習を進めています。

15:45

具体的な実践事例③ ～三次市立みらさか学園～



一人で辞書やタブレットで調べながら学習している児童もいれば、ペアやグループで相談しながら進める児童、先生に分からない所を聞きながら進める児童もいます。

15:46



15:47

本当に一人一人が決めて取り組んでいるね。でも作った計画通りに行かないこともあるんじゃない？

既読
15:47



もちろんあります。でもそういう経験をすることで、計画を修正したり、やり方を工夫しようとする姿が見られ、自分自身で学習を調整できるようになっていきます。

15:48

実際、最初の計画では先生に教えてもらおうとしていた児童が、学習を進めるうちに自分でできるかもしれないと感じて、自分で進める計画に修正していました。

15:49

自分で学習する力が身に付いてきているね！新学習指導要領でも言われている「自己調整力」だね！

既読
15:51



友達同士で相談し合う姿や、「分かりません」と質問してくる子供が増えたみたいです！

15:52

なるほど！学び方が分かってきたんだね！

既読
15:53

でも、ここまで自由にできると、例えば、先生が他の子供に教えていて目が届かない時に、インターネットで関係ないページを見たり、遊んだりする子供が出てくるんじゃない？

既読
15:55



実際にそういう子供がいましたよ。でも、その時、先生は気付いていましたが、あえて「指導」はしませんでした。

15:56

具体的な実践事例③ ～三次市立みらさか学園～

既読
15:56

え！？ 放っておいていいの？

あとで先生に聞いてみると、プロジェクトの期日を提示していたので、もしその児童が期日までに目標達成できなかったら、自分の学習の振り返りの中で、なぜできなかったのかを考えて、説明してもらおうと思っていたようです。

15:58

学習の責任は子供たちにもあるということですね。でも、すべてを見守るわけではないよね？

既読
15:59

先生方は、その場で指導するかどうか、一人一人の子供の実態や学習状況などを踏まえて決めています。

16:01

もちろん人を傷つけるような行為を放っておくわけにはいきません。子供の実態に応じて自分の行動に気付けるよう支援、指導することが重要だと思っています。

16:02

まさに「個に応じた支援」が大切だってことだね！

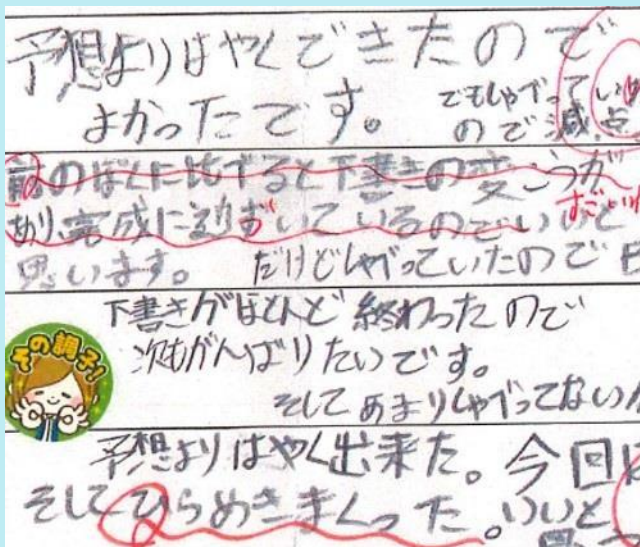
既読
16:03

そうですね。もう一つ重要なことは、子供たちは学ぶ力を持っているんだと信じることです！

16:04

これは児童の学習計画表の一部なのですが、表の端に私語についての反省が書かれています。授業が進むにつれて私語が減ってきている様子が窺えます。

16:05



16:05

具体的な実践事例③ ～三次市立みらさか学園～

既読
16:06

他に、やってみて分かったことはあるの？

実は、学校で実施している調査の結果を分析したら面白いことが分かったんです。

16:07

「思考力」や「チャレンジ精神」と強い相関があるものって何だと思いますか？

16:08

分析前は、「学習規律」や「学習課題」と相関があると思っていたんです。

16:08

分析してみたら、「学習計画力」、「学習習慣」、「学び方の理解」が重要であることが分かったんです！

16:09



16:09

既読
16:10

子供たちに委ねることの重要性が数値でも示されたのね！

既読
16:10

ところで先生方は、どのように取組を進めていったの？

まずは、なぜこの取組をするのか、その目的について、先生方同士で対話をしました。

16:11

みらさか学園では、自立と共生の力を持ち、主体的に学び、課題解決できることを目指していました。

16:11

だから、子供たちに「自己決定」する場面を設けて委ねていくことをみんなで確認しました。

16:12

既読
16:13

目的を意識して、学校全体で共有することはとても大切だね！

具体的な実践事例③ ～三次市立みらさか学園～

教員にとって子供たちに『委ねる』ことはとても勇気のいることだったので、委ねるためには何が必要なのかを議論しました。

16:14

やる気が出る課題／学習計画・見通し／学ぶ仲間／一定のルール／適切な評価・助言・支援など、多くの意見が出ました。

16:15

それらを整理して、みらさか版「委ねる」システム作り！として、学校で重点的に取り組む内容を決めていきました！

16:16

みらさか版 「委ねる」システム作り



モチベーションの上がる
めあて 課題 問い



学習計画
(学びの進め方)



学び合い
(学びの集団)



学びの環境



教科書 タブレット
(学ぶ方法)



振り返り、ループバック
(学びの評価)

16:17

既読
16:19

なるほど、先生方が対話しながら作っていったんだね。

さらに、一人一人の子供の実態に応じて個別最適に対応できるよう、『委ねる』レベル感を整理しました。

16:20

プロジェクト型「委ねる」授業のイメージ

ステップ1

(これまで以上に) 選択肢, 自己決定の場面を入れた単元・授業

ステップ2

活用場面で委ねる

ステップ3

知識・技能習得場面も含め委ねる (学習計画提示)

ステップ4

知識・技能習得場面も含め委ねる (児童生徒による学習計画作成)



16:21

教科・単元の内容や、学級集団、発達の段階によって、委ねる内容や方法も変わってくるので、こういった部分を意識して、各教員、各教科で、できるところから取り組んでいます。

16:23

既読
16:24

これからの進化が楽しみだね！また色々教えてね ^^

既読
15:25

福山中学校では、どんな取組をしているの？

福山中学校では、学校教育目標に「国際社会に貢献できる人間の育成」を掲げ、一人一人の夢の実現に向けて、主体的に歩むことのできる生徒の育成を目指しています。

15:27

学校教育目標

創造的な知性と豊かな心の調和的な発展を図り、国際社会に貢献できる人間を育成する

育みたい資質・能力

情報整理力 協働
表現力 自他の尊重
課題解決力 チャレンジ精神

キャッチフレーズ



15:27

一人一人の夢の実現に向け、360人の生徒が360通りのMy探究プロジェクトを立ち上げ、興味・関心に応じて、自分のやりたい事を自分のペースで企画・実行しています。

15:28

既読
15:29

どうしてこのようなMy探究の取組を始めたの？

生徒主体の学びを展開するため、コロナ休業中の5月に、オンラインで直接、生徒たちの思いを聞いてみたんです。

15:30

すると、「総合的な学習の時間では自分たちがやりたいことを実行したい」とか「授業を変えたい」など、とっても頼もしい意見がたくさん飛び出してきたんです！

15:31



5/1 & 5/7 ミーティング ～みんなの意見まとめ～

- 総合の目的は？そのために何をしたい？
 - **自分たち**で課題を見つけ、考え、調べ、計画し、実行する力をつける
 - 何をしたいかを**全員**で考え、**自分たち**がやりたいことを実行したい
- こんな意見も…
 - **授業を変えたい！ 校則を変えたい！** 中学校と高校の壁を壊す！
 - 固定観念をブレイクしたい！** もっと**広い範囲**で活動したい！ etc...

15:32

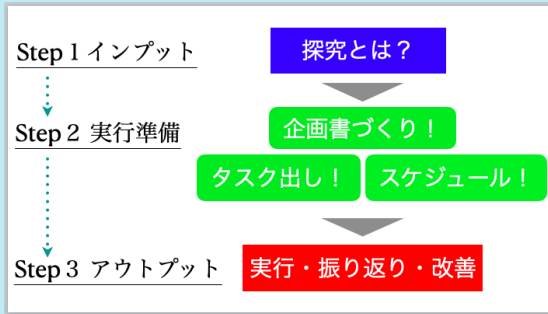
具体的な実践事例④ ～福山市立福山中学校～

既読
15:33

総合的な学習の時間の授業の流れはどんな感じなの？

探究学習の基礎をインプットした後は、企画書等を作り、実行して、振り返り、改善して、また実行の繰り返しです。

15:35



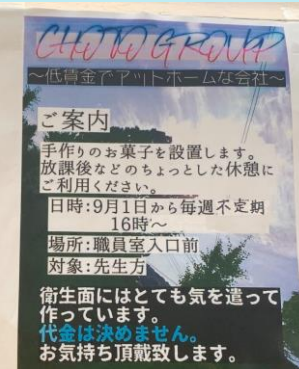
15:36

既読
15:37

生徒たちはどんな探究プロジェクトを実行しているの？

会社を経営したい生徒と美味しいお菓子を作りたい生徒がタッグを組んで、手作りお菓子の販売を始めたり、

15:39



15:40

野菜を作りたい生徒たちは、中庭を耕して土のPHを測定し、その土の成分に適した野菜を栽培し始めたり、

15:42



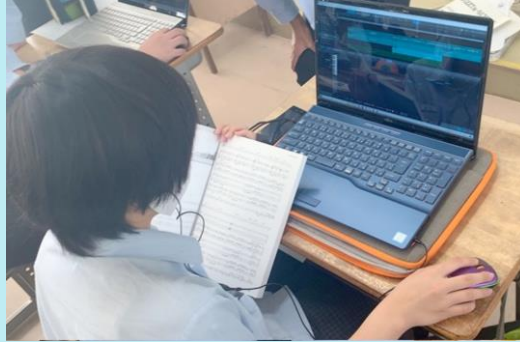
15:43

具体的な実践事例④ ～福山市立福山中学校～



数学が大好きな生徒は、素数だけを使う「大富豪(トランプ)」を世の中に広めるための活動を始めたり、オリジナルの曲を配信したい生徒は作曲に没頭したりしています。

15:45



15:46

既読
15:48

その探究活動は、授業の中だけでやっているの？



いつ、どこで、誰と、何を、どのようにやるのか、全て生徒の自己決定に委ねています。

15:50



毎週火曜日の総合的な学習の時間(2コマ)では、授業の最初に前1週間の実行の振り返りと授業中にやることを書き出します。あとは各自それぞれ実行して、最後に振り返りと次の1週間でやることを見える化しています。

15:51

既読
15:53

授業中は、教室の中だけで活動しているの？



事前に許可を得れば、活動場所も自由です。例えば、福山の魅力を動画でPRしたい生徒たちは、授業中に市内まで撮影に出かけたりしています。

15:55



お菓子づくりチームは、休日に地域のマルシェに出店するなど、徐々に活動場所が外部へと広がってきています。

15:56

9月29日(火) 総合

メンバー	場所	何をするか	許可をもらった先生の名前	メンバー	場所	何をするか
大野	声楽	練習	村上先生	出陣	テニスコート	練習
松沼				山形		
小林				川原		
高原	化学	素数大富豪	村上先生	川原	化学	発表
運	講義			藤田	講義	
森原	化学	集英社	丹羽先生	藤田		相談
岡田	講義	発行		藤田		練習
	室			大野		



15:57

具体的な実践事例④ ～福山市立福山中学校～

既読

16:00

そんなに生徒の自由にさせて大丈夫なの？

生徒とは、My探究の目的＝資質・能力(コンピテンシー)の育成や自分のキャリアをデザインすることなどを共有しており、その範囲内で、生徒を信じて委ねています。

16:02

また、学年ごとに「本質的な問い」を設定しており、生徒には、その問いに対する自分なりの最善解を、My探究を通して言語化せよ！というミッションを課しています。

16:04

＜本質的な問い＞

【3年】自分にとって「学び」とは何か？

【2年】自分は「社会」とどう繋がっているのか？

【1年】自分は「何者」なのか？

～アクションを通して自分をより深く知ろう～

16:05

「本質的な問い」とは、「何度も問い直され、答えが更新され続ける問い」であり、生徒を深い学びへと誘います！

16:06

これって、新学習指導要領ともリンクしてるよね？
それに、こういう取組をしていると、本県の高校入試に新設される「自己表現」にも対応できそうだね！？

既読

16:09

新学習指導要領には「総合的な学習の時間」の目標として「よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する」と明記してありますね！

16:11

県教育委員会が掲げる「15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力」とも合致しますね！実際、福山中の生徒は、これらの力を活用する機会が増えています！

16:12

広島県の15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力

自己を**認識**し 自分の人生を**選択**し
表現することができる力

＜My探究に関する生徒アンケート＞

区分	質問内容	肯定的回答
自己認識	My探究を通して、自分自身のことを考えて理解する機会が増えましたか？	92%
自己選択	My探究を通して、自分で選択する機会が増えましたか？	91%
自己表現	My探究を通して、自分を表現する機会が増えましたか？	90%

(令和3年3月福山中学校生徒アンケート結果より) 16:14

具体的な実践事例④ ～福山市立福山中学校～

既読
16:15

生徒の資質・能力はどうやって測っているの？

学校で育みたい資質・能力とコンピテンシーをリンクさせた振り返りシートを活用しています。

16:16



■プロジェクト管理表(振り返りシート)

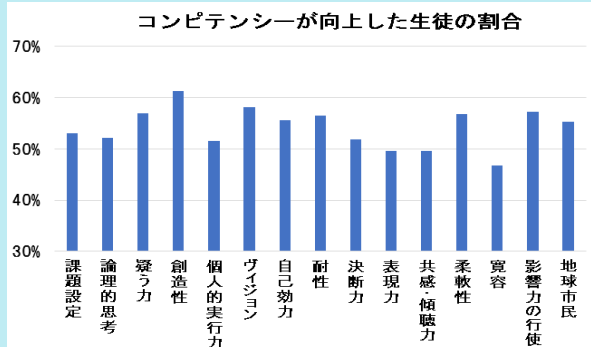
プロジェクト名		学年・クラス・科名	年 組
学校教育目標		創造的な知性と豊かな心の調和的發展を図り、国際社会に貢献できる人間を育成する	
個人が育みたい資質・能力	情報処理能力	読解力	課題解決力
	論理的思考	創造性	課題設定
日頃の学習でも「AiGrow」	読解力	表現力	決断力
	読解力	表現力	個人的実行力
目標		状況説明	目標
06-01	論理的思考		

16:18

また、AIによるコンピテンシー測定分析ツール「AiGrow」を活用して、年3回、自分のコンピテンシーを確認することで、生徒の「メタ認知」を促進しています。

16:20

◆評価の実施はスマートフォン又はタブレットで簡単3ステップ



16:22

My探究の取組の前後(R2.7とR3.2)で、15のコンピテンシーを測定したところ、ほぼ全てのコンピテンシーについて、50%以上の生徒に伸びが見られました。

16:24

先生はMy探究にどのように関わっているの？

既読
16:25

生徒の主体性や自己決定を最大限尊重し、なるべく「指導・先導」だけでなく「支援・伴走」もするように心掛けながら、一人一人の学びを見取るようにしています。

16:26

それにより、新学習指導要領で、「主体的に学習に取り組む態度」の評価イメージに記載のある「自己調整力」や「粘り強さ」などを見取っていくこともできます！

16:27

具体的な実践事例④ ～福山市立福山中学校～

既読
16:28

実際に取り組まれた先生方はどんな感触なの？

先生方へのインタビュー動画があるのでご覧ください！
写真をクリックするとYoutubeに移動します。

16:29

「生徒の行動の変化が見てとれた」「体育の授業でも生徒に委ねる形が定着してきた」などの声がありました。

16:30



16:31

また、「教職員が生徒の学びが沸き起こるまで信じて待てるようになった」「生徒集団全体が自信を持ったように感じる」といった声も聞かれました。

16:32



16:32

さらに、「生徒が思考し続けている姿があれば、それはそれでいいかと考えて、無理に軌道修正しなくなった」「理科の授業でも生徒に委ねる探究を取り入れた」といった声も聞かれました。

16:33



16:34

具体的な実践事例④ ～福山市立福山中学校～

一人一人が全く違うプロジェクトを各自のペースで展開していると、先生方が把握するのが大変じゃない？

既読
16:35

最初は大変でした。でも、プロジェクトが進むにつれて、あの子は「畑の子」、あの子は「お菓子の子」みたいに、学年やクラスを超えて、だいたい誰が何のプロジェクトをやっているか分かるようになってきました。

16:36

全て詳細まで把握しようとするとしんどいですが、基本的には生徒に学びを委ねているので、先生方は必要な時に最低限の支援をする姿勢で臨んでいます。

16:37

なるほど！あえて主体的な学びに必要な「自己調整力」や「粘り強さ」を発揮する場面を作っているのか！

既読
16:38

中にはグループで活動している生徒もいるんだね。

既読
16:38

たまたま探究テーマが似ていた生徒同士が集まって、グループで活動している生徒もいます。

16:39

2つのプロジェクトを掛け持ちする生徒、実行過程で探究内容が変わる生徒など、多様性にあふれています。

16:40



16:41

「自由に探究していいよ」って言われても、なかなか実行に移せない生徒もいたんじゃない？

既読
16:41

そもそもやりたい事が見つからないという生徒もいました。でも、学習指導要領が掲げる「自己の生き方を考える」という総合的な学習の時間の目標を踏まえて、生徒が自ら考えて動き出すのを待ちました。

16:42

具体的な実践事例④ ～福山市立福山中学校～

やっぱり先生の方である程度テーマ設定した方がいいんじゃない？

既読
16:43

一部の先生からそういう声が上がったので、子供たちにとって何がベストなのか、先生方で対話を重ねました。

16:44

結局、学習指導要領にも、学校の実態に応じて「生徒の興味・関心に基づく課題」等を設定することが示されているので、福山中学校の教育目標などを踏まえて、探究テーマは生徒に自己決定させました。

16:45

中には遊びみたいなプロジェクトもあるんじゃない？

既読
16:46

例えば、1年生のプロジェクト一覧です。個性的ですね♪

16:47

将来の夢をかなえるために・・・
オリキャラを作ろう
理想の部屋にする
小説を書こう
テニスの試合で勝てるようになる！
美人のお姉さんをナンパする（浜辺美波似の人）・野球部を作ろう
空手の型で日本一をつかめ！
行きたいところに旅に出る
プログラミングについて知ろう
部屋の女子力をあげる

16:47

「お姉さんをナンパする」プロジェクトとか、本当に「学びの価値」があるのかな？

既読
16:48

「学びの価値」って誰が決めるの？学びの主体は子供！ということから考えると、子供の学びに「価値付け」をするような問いかけや支援をすることも、先生の大切な役割ですよ！

16:49

そっか！例えば「何のためにそれをするの？」と質問するとか。きっと目的はコミュニケーション力の向上で、ナンパは手段の一つだよな。

既読
16:50

そうそう。好きな人を振り向かせるには、自己認識力・表現力、共感・傾聴力など、社会人にも必須となる汎用的なスキルが欠かせないですよ！

16:51

具体的な実践事例④ ～福山市立福山中学校～

外部の人との連携はどのようにしてるの？

既読
16:52

相談には乗りますが、まずは生徒に考えてもらいます。「どうすればいい？」と聞かれたら、「どうすればいいと思う？」と問い返しています。

16:53

すると、自分で連絡先を調べて、メール、電話、ZOOM、SNSなど、様々なツールを駆使して連携しようとしていますね。当然うまくいかないこともあります。失敗も大切な学びだと捉えています。

16:54



16:55

例えばどんなところと連携しているの？

既読
16:56

各自の探究のテーマに応じて、地元の企業から首都圏の出版社や芸能事務所まで、多種多様です。

16:57

キャップ野球を広めたいプロジェクトの生徒は、キャップ野球が強い長崎大学と連携していました。

16:58

これぞまさしく『社会に開かれた教育課程』だね！

既読
16:59

コロナ禍で大変な地元のホテルと連携して、地元食材を使った新メニューの開発に取り組んでいる生徒もいます。

17:00



17:02

具体的な実践事例④ ～福山市立福山中学校～

既読
17:03

生徒のアプローチに対する外部の反応はどんなの？

例えば東京の出版社訪問を企画した生徒は、コロナで上京を断念。ZOOM会議も実現しませんでした。最終的には手紙で全インタビュー項目に回答をもらいました。

17:05

集英社への質問

1. 漫画家さんのこと
2. 漫画ができるまでの工程
3. 連載をするまでの流れ
4. 漫画の出来上がるまで
5. デジタルやアナログの使い分け
6. 新人賞の応募で入賞を決める基準（厳密）
7. 紙と電子の売り上げの違い
8. 漫画がアニメ化されるには
9. 作品ができるまでの日数
10. 漫画家さんの描く電子と紙の割合
11. 漫画家さんの作業場所
12. だいたい平均で一人の漫画家さんにアシスタントさんは何人
13. 漫画家さんの愛用している道具
14. 一番社会に影響を受けさせた漫画
15. 海外で一番人気の集英社さんの漫画
16. 一番忙しいときはいつか



17:06

この過程で、この生徒たちは「耐性(耐える力)」が身に付いたと言っていました！自己肯定感も向上しています！

17:07

大人から対等に扱ってもらえると、社会の一員としての当事者意識も高まるよね！素敵なキャリア教育！

既読
17:09

R3年度は、もっと外に飛び出して、実行する場面を増やすため、生徒主催の校外フェスを年数回開催します！

17:10

へえ～、すごい！他校ともコラボできたら面白いね！

既読
17:11

また、My探究を異学年混合のゼミ制にして、全教職員が生徒をファシリテートできる環境を作る予定です。

17:12

学期終わりにまとめの発表会をやるより、プロジェクトの途中で、互いに車座になって、進捗や悩みを共有する方が、より探究が深まるのではないかと考えています♪

17:13



17:14